

## ワシントン条約第 15 回締約国会議の結果概要

1. 日 程：平成 22 年 3 月 13 日（土） - 25 日（木）
2. 開催地：カタール（ドーハ）
3. 我が国からの出席者：  
環境省（中島野生生物課補佐他 1 名）、外務省、林野庁、水産庁、  
経済産業省他、関係省庁の関係者等が出席した。
4. 主な討議事項
  - (1) 陸棲動物の附属書改正（環境省担当）
    - ・ アフリカゾウのタンザニアとザンビアの国内産の在庫生牙の輸出等を条件付きで 1 回限り認める（タンザニア及びザンビア提案）が否決された。
    - ・ アフリカゾウの南部アフリカ 4 ヶ国産の生牙の輸出を 9 年間禁止することが前回締約国会議で決定されているが、これをアフリカゾウの全ての生牙を 20 年間取引させないことに変更する（ケニア他 7 ヶ国提案）が否決された。
    - ・ ホッキョクグマの附属書 Ⅰ から附属書 Ⅱ へ移行（アメリカ提案）が否決された。
    - ・ マリアナガモの附属書からの削除（スイス提案（寄託政府））が可決された。
    - ・ グアテマラワニのメキシコ及びベリーズ個体群の附属書 Ⅰ から附属書 Ⅱ への移行（メキシコ提案）が承認された。
    - ・ ナイルワニのエジプト個体群の附属書 Ⅰ から附属書 Ⅱ への移行（エジプト提案）が承認された。
    - ・ カイザーツエイモリの 附属書 Ⅱ への掲載（イラン提案）が承認された。等
  - (2) 水産動物の附属書改正（水産庁担当）
    - ・ 大西洋クロマグロを附属書 Ⅰ に新規掲載（モナコ提案）が否決された。等
  - (3) その他  
基準となる学名、及び戦略ビジョン（2008-2013 年）改訂案等の採択、並びに条約の履行に関する決議のレビュー等について議論された。  
また、当会議開催期間中のアジア地域会合において、新たな常設委員会アジア地域代表に、日本及びクウェートが選出された。
5. 次回締約国会議  
次回、第 16 回締約国会議は、平成 25 年にタイで開催されることが決定された。